

年度別赤血球在庫の推移（全国集計）

（単位）



平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

北海道赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	ティーンズドナー献血キャンペーン	全道の中中学生から20代の若年層	協力者数 3,000名以上
2	サタデー・テーリング	小学生、特に高学年に献血の重要性を啓蒙する	期間 4月～9月まで 参加者3,000名以上
3	サマー献血キャンペーン	10～20代を中心とした若者	全道、5ヶ所で実施 800名以上
4	施設見学や総合的な学習等の受入	学生(小・中・高・短大・大学) 幅広く啓蒙を図る	参加者 600名 以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血事業所の開拓・確保	献血実施していない事業所や献血会場周辺企業等の啓蒙活動	現在、事業所が減少している状況ではあるが 目標 15～20社
2	待機型企業・団体の確保	規模縮小の為、献血協力ができなくなった企業・団体。駐車スペース、他の状況で献血できない事業所。年一回実施事業所への要請。	動員協力団体 300社
3	事業所・団体等の研修会実施	献血の重要性と400mL・成分献血の啓蒙、強化	道内各センター 200社
4	成分献血協力団体・企業の啓蒙	待機型企業・団体及び少人数の企業・団体	現状 40社 目標 40～50社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	ハガキ・電話要請の強化	前回採血から期間があいている献血者	400mL・血小板成分献血者 応諾者数(実協力者数)3,000名以上
2	複数回献血クラブの運営	複数回献血者会員へメールによる啓蒙	年度会員 2,000名
3	献血処遇品の変更	献血者のニーズに合わせた処遇・一年間で3回の品物変更	新たに1,500名以上の複数回献血者を確保

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の作成	全血献血希望者	全道目標 82%
2	ハガキ・電話の依頼	400mL献血可能な方	400mL可能 応諾者数(実協力者数)2,500名以上
3	実施企業・団体の年間回数、実施時期等の精査	年2～3回以上実施企業・団体	400mLの採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定
4	推進キャンペーン・フォーラムの実施	複数回献血可能者 献血実施企業・団体	各イベント(ティーンズドナー 3,000名・サマー献血800名) 献血フォーラム 300名

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

青森県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	ハガキ依頼	18～29歳の400mL献血可能者	20,000人の若年層を確保
2	セミナー開催	短大・大学生	6回開催、参加人数100人
3	はたちの献血	成人式に参加した方(2,500人)	献血記念品引換券を配布し250人の献血者を確保
4	親子セミナー	小学生	夏休み中に2～3回企画

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血協力事業所・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺企業	24社新規確保
2	緊急要請可能な企業・団体の確保	ショッピングセンター及び官公庁	10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	メールにより献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数400人以上アップ
2	ハガキによる献血依頼	年1回の献血者	応諾者数200人以上アップ
3	献血実施場所の年間回数増加	年1回の事業所	15ヶ所
4	新規複数回献血クラブ会員の募集	全献血者	1,000人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	献血受付時による依頼	18～64歳(69歳)までの体重50Kg以上	730人アップ
2	400mL献血強化運動	献血協力事業所の訪問	200事業所訪問で200人アップ
3	高校献血における400mL献血受入	400mL献血可能者	40校で80人アップ
4	ポスティング	献血ルーム周辺の住民	100人アップ

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	電話による献血依頼	血小板成分献血	年間300人アップ
2	次回予約者の確保	既血血小板成分献血	年間500人アップ
3	ポイント制の推進	400mL献血者及び成分献血者	年間200人アップ

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

岩手県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	高校生への普及啓発	高校生(主に高校3年生)	協力者数2,900人以上
2	大学・専門学校での献血実施	短大・大学・専門学校	協力者数4,200人以上
3	親と子の血液センター見学会	小学生と保護者	参加320人以上
	セミナー開催	高校生・短大生・大学生・専門学校生	2回以上開催 参加200人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	80社新規企業開拓
2	年2回以上の協力依頼	年1回の献血団体	10会場

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員(パソコン、携帯)	応諾者数(実協力者数)100人以上
2	ハガキによる献血依頼	前回献血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)3,000人以上
3	封書による献血要請	登録者(複数回献血クラブ会員を含む)	応諾者数(実協力者数)1,500人以上
4	封書による献血要請	前回献血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)1,500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血可能者	20,000人に依頼
2	高校献血における400mL献血受入れ	400mL献血可能者	40校
3	400mL献血普及啓発パンフレット	県民	全献血会場に設置

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

宮城県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	はがきによる献血のお礼状送付	16～29歳の献血初回者	献血再来者数200人以上
2	はがきによる400mL献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	献血再来者数150人以上
3	大学、専門学校(仙台市内)における学内献血推進強化(春の献血キャンペーン)	大学生、専門学校生	10回開催 延献血者数500人 ※前年度より2割増の献血者確保
4	献血実績の高い大学、専門学校への配車を増やす	大学生、専門学校生	2回開催 延献血者数100人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の開拓	献血未実施企業、及び献血実施企業の周辺企業等	55団体新規登録
2	休眠献血団体への働きかけ	休眠団体	5団体再登録
3	統一システム上の下位団体への働きかけを上位団体と共に行う	統一システム上で下位団体を有する上位団体	64団体実績計上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応募者延べ数 800人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者(献血ルーム来場者)	応募者延べ数 6,000人以上
3	年1回の事業所について複数回協力の実施	年1回の事業所	10社

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者(献血ルーム来場者)	献血応募率10%以上
2	地域住民へのはがきによる献血依頼	献血実施地域の400mL献血可能者	献血応募率10%以上
3	400mL献血受入のみの実施日を設ける	満18歳以上の全血献血者	献血ルーム約100稼働、献血バス約200稼働
4	400mL献血受入可能な高等学校数増加	県内高等学校	3校
5	400mL献血比率の高い事業所への複数回の配車	年1回及び2回の400mL献血比率の高い事業所	

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に添じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	はがきによる会員登録の案内	献血依頼対象者	総会員登録者数 5,000人以上
2	メールによる成分献血予約の案内	複数回献血クラブ会員	成分献血予約 1,000人以上
3	定点献血実施場所の追加	大型ショッピングセンター等	1ヶ所増、年間献血者数見込み600名
4	移動採血における稼働率向上	県内市町村及び保健所	前回と同様の献血予定で献血人数が、日計30人未満の場合には1ヶ所献血会場を追加するなどし、1台あたり47人以上の献血者が確保できるよう、計画段階で調整する。

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

秋田県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	講演会(またはセミナー)の開催	高校生、学生及び20代の社会人	年6回開催、参加者300人以上
2	はがきによる献血依頼	大学生、その他学生	依頼者5,000人、協力者500人以上
3	献血キャンペーンの実施	10～20代の献血者	年2回開催、10～20代の協力者300人以上
4	高校生に対する感謝状の贈呈(卒業時)	高校3年生で在学中に5回以上の献血協力があった生徒	贈呈者200人以上
5	情報誌の発行と配布	複数回献血クラブ会員・献血者及び秋田市住民	年4回発行(各18,000部)
6	若年層向けリーフレットの配布	大学生、その他学生	5,000部作成・配布

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施企業	15社
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	規模縮小等により献血実施できなくなった企業・団体	20社
3	成分献血協力団体の確保	既献血団体及び小人数の企業・団体	5社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	依頼者1,800人、実協力者800人以上
2	はがきによる献血依頼	複数回献血クラブ会員・献血登録者及び献血バス巡回先住民	依頼者20,000人、協力者1500人以上
3	新規会員の募集	献血登録者	複数回献血クラブへの入会者300人以上
4	情報誌の発行と配布	複数回献血クラブ会員・献血者及び秋田市住民	(上記①若年献血者確保対策に含まれる)
5	リーフレットの配布	大学生、その他学生	(上記①若年献血者確保対策に含まれる)

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
2	ポスターの制作と掲示	献血会場及び保健所・市役所等	献血会場を中心に400箇所
3	献血会場での400mL献血に限定した受入	オープン献血会場及び県主催キャンペーン会場	オープン献血会場年50回、キャンペーン会場年10回
4	高校献血における400mL献血受入	400mL献血可能者	実施校10校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	固定施設を対象とした電話による献血依頼	既血血小板成分献血者	400人/月を目標に年間4,800人を確保する。
2	地域献血実施体制の拡充	(企業・事業所を除く)地域献血実施時における支援団体	献血呼びかけ等への新規協力団体5団体

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

山形県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	献血セミナー開催	高校生・大学生	1回開催 参加数 100人
2	若年層向け献血説明会	小中学生	10回開催 参加数 1000人
3	学生献血協力団体組織化事業	各大学・各種専門学校等	20団体

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	献血協力団体(献血実績有)への依頼	献血実績有の各協力団体	30社
2	新規事業所の開拓	献血未実施の協力団体	10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾率20% 応諾者数 600人
	はがきによる献血依頼	主に街頭献血での「400mL献血」実施者	応諾率20% 応諾者数 3,000人
	献血現場での複数回献血依頼	主に「400mL献血」実施者	目標15,000人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	400mL献血推進用チラシ作成	全血献血希望者	献血会場及び各保健所、市町村へ配布
2	ハガキ依頼	主に街頭献血での「400mL献血」実施者	(上記③複数回献血者確保対策に含む)
3	高校献血での400mL献血実施	18歳以上	10校
4	400mL献血推進キャンペーン	すべての献血者(400mL献血可能な方)	400mL献血構成比5%アップ

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	電話、はがき依頼強化	血小板成分献血可能者	5名/日確保を目標
2	成分献血キャンペーンの実施	献血ルーム来所者	新規成分献血者 500人確保
3	平日の成分献血者確保	移動採血で成分献血実績有の献血協力団体	10社

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

福島県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	ヤング献血21キャンペーン	高校、短大、大学、専門学校生	1回開催 50人参加
2	若年者献血セミナー開催	高校、短大、大学、専門学校生	2回開催 350人参加
3	青少年等献血ふれあい事業開催	小学、中学、高校生	10回開催 300人参加

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	・献血未実施企業の新規開拓および休眠企業の協力再開 ・献血会場周辺中小企業の新規開拓	20社新規登録
2	新規献血協力団体の確保	中小企業経営者等で組織する団体の新規開拓	1団体新規に実施

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	メールによる献血協力要請	複数回献血クラブ会員	協力者1000人以上
2	ハガキによる献血協力依頼	大型店舗等の街頭献血での複数回献血クラブ会員及び一般献血者で次回開催日に400ml協力可能者	協力者1000人以上
3	実施場所(企業・公的機関)の年間回数の増加要請	年1回のみの実施や大人数の企業・公的機関	3ヶ所以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
	400ml献血啓発資材の提供(400ml献血推進キャンペーン)	400ml献血協力者および400ml希望者の不適合者	400ml献血者および希望者
	はがきによる献血依頼	400ml献血可能者	協力者数300人以上
	実施場所と実施時期の精査	年3回以上の実施場所および団体	市町村との細やかな調整による計画策定

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成20年度目標(数値)
1	成分献血登録者募集用DMの配布	成分献血未経験者で可能者	4固定施設で年間500人確保する
2	定期的成分献血者確保対策(ポイントキャンペーン摘要)	次回まで1ヶ月以内の成分献血者	4固定施設で年間1000人確保する

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

茨城県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	セミナー等の開催	高校・短大・大学生	3回～5回実施
2	若年層キャンペーンの実施	高校・短大・大学生	2回～3回実施 参加者500名 献血者150名
3	夏休み親子教室	小学生	3日～5日実施

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	新規事業所の開拓	1回/30名以上の協力を得られる新規事業所	10～20社
2	休眠状態の事業所の実施	実施しなくなった事業所の見直し	10～20社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブの登録者	応諾者数 1,200人
2	ハガキによる献血依頼	献血可能者	応諾率 20%
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1～2回実施の事業所	5～10ヶ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	受付及び検査時の400mL推進の強化	400mL可能者で200mL希望者	月/200名
2	ハガキによる献血依頼	400mL献血可能者	上記、複数回献血者確保対策に含む
3	高校献血の見直し	休眠状態の事業所と組み合わせる	10ヶ所

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	各献血ルームでの電話による依頼実施	血小板献血者	応諾者数 600人

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

栃木県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	高校献血の実施	16~18歳の高校生	協力者8,000人以上
2	大学・短大・専門学校献血実施	18~22歳の学生	協力者6,500人以上
3	青少年等献血ふれあい事業・若年者献血セミナー事業の開催	小中高生・から30代未満の若年者層	

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	20社
2	市町担当者と血液センターが連携し献血企業・団体への協力依頼	各市町で実施計画されている企業・団体	企業・団体での前年度実績を上回る協力者
3	休眠団体への働きかけ	規模縮小等により献血実施できなくなった企業・団体	10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	複数回献血クラブ会員の確保の増加	若年者層を主とし確保	献血クラブ会員1500名以上
2	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500以上
3	はがきによる献血依頼	前回献血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)500以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	ハガキ・メールによる献血依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血確保対策に含まれる)
2	400mL献血推進キャンペーン	400mL献血可能者	全血400比率73.9%
3	高校献血における400mL推進	400mL献血可能者	高校生における400mL比率増加

⑤その他の具体的対策(①~④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	次回の平日成分予約推進	成分献血者	平日2人/日为目标に年間500人増加
2	午前中及び平日の成分献血者確保強化(全血献血者の成分献血シフト推進)	成分献血者及び全血献血者	午前中及び平日を2人/日年間500人確保
3	県・市町で成分献血を主体とし実施する出張採血での確保増加	成分献血者及び全血献血者	実施回数193回成分確保数3,535人確保

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

群馬県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	Jリーグ(J2)ザスパ草津の献血推進ポスター作成と献血応援スペシャルマッチの開催	同クラブサポーターに留まらず、県内若年層全体をターゲットとする。	スペシャルマッチは4,500人来場・その他イベント参加。
2	県作成。献血に関するコンピューターゲームを当センターホームページに掲載。	小学校4年生以上を対象とし主に若年層を対象としている。	(現在、群馬県薬務課で作成中)
3	群馬県学生献血推進連合の献血推進キャンペーン	大学生・短大生が中心となり活動し街頭や学内で同年代を対象に献血推進を呼びかける。	キャンペーンは5回以上 献血者400人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	新規献血協力団体の確保と増回実施依頼	献血未実施事業所開拓と実施団体の増回実施	50社新規協力。「献血サポーター」制度の活用により新規団体確保を目標とする。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	メールクラブ会員へ協力要請	複数回献血クラブ会員	応諾者(実協力1,000名)以上
2	講演会・健康相談(リラクゼーション)の実施	複数回献血クラブ会員・複数回献血者	冬季(2月～3月)に実施。
3	はがき・電話による献血依頼	移動採血では会場別、ルームではルーム別の一定期間未実施献血者・血液型別要請	応諾者(実協力3,000名)以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	高校献血における400ml献血の受入れ	400ml献血可能者。	5校増加
2	献血会場掲示の400ml資材の作成	全血献血希望者	
3	献血団体の年間総量・年間回数精査	年間3回以上の団体。(女性が多い団体は年間2回で考慮)	できる限り、献血者が総量・期間で200ml献血にならぬよう考慮した計画を組む。

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	次回予約献血の推進	成分献血者	3ルームで年間2,000名確保する。
2	需給の情報を把握し事業所献血の動員献血依頼	成分献血者	3ルームで緊急時依頼で300名確保する。

平成20年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

埼玉県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	出前講座	小学生、中学生、高校生、その他学生	20回開催 参加者3500名
2	親子ふれあい献血キャンペーン	幼児、児童及び両親	イベント参加者500人、献血者270人
3	彩の国献血フォーラム	若年層、各年齢層	参加者300人
4	卒業献血キャンペーン	高校3年生	献血者300人
5	県・市町村・血液センター3者の高等学校訪問	埼玉県内の高等学校全校	197校

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	県・市町村・血液センター3者の新規献血協力団体の開拓	献血未実施企業及び団体	50団体
2	献血ルームへの献血協力団体の開拓	移動採血車による献血実施ができない企業及び団体	30団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	会員数8,000人
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数20,000人以上
3	県・市町村・血液センター3者の年一回協力団体の訪問	年一回実施企業及び団体	20団体

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の製作	全血献血希望者	全員に配布
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	高校献血における400mL献血受入れ	400mL献血可能者	5校増

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成20年度目標(数値)
1	平日の成分献血の予約推進	血小板成分献血者	平日平均予約人数 30人
2	電話による献血依頼 (水曜日と木曜日の予約率の向上)	既血小板成分献血者	水曜日、木曜日の平均予約人数 35人
3	メールによる緊急依頼	既血小板成分献血者	応諾率20%